

デーヴォ ガイド



2024.2.3-9

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

3日 月曜

ヨハネ



9:35 イエスは、ユダヤ人たちが彼を外に追い出したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」

9:36 その人は答えた。「主よ、私が信じることができるよう教えてください。その人はどなたですか。」

9:37 イエスは彼に言われた。「あなたはその人を見ています。あなたと話しているのが、その人です。」

9:38 彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した。

9:39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」

9:40 パリサイ人の中でイエスとともにいた者たちが、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」

9:41 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります。」

見えなかった人が、イエス様に見えるようにされるという恵をいただきましたが、その目的は霊の目が開かれることでした。彼はイエスを約束の救い主であると信じたのです。

私たちは主に恵を求めて祈りますが、それが聞かれるということは、それで終わりではなく、霊の目が開かれて大切な真理を教えていただくためなのです。祈りが聞かれて良かったというだけで終わらないようにしましょう。

パリサイ人は、「私たちも盲目なのですか」と質問しますが、もしもそれが謙遜な思いからであるな

ら、イエス様に聞き従ったでしょう。しかしそうではありませんでした。彼らは「見える。」と思っていたのです。

一見謙遜な受け答えをしながら、その実”自分”は分っている。教えられる必要などない。”という結果にならないように、常に自分の足りなさを認める者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 火曜

ヨハネ



10:1 「まことに、まことに、あなたがたに言います。羊たちの囲いに、門から入らず、ほかのところを乗り越えて来る者は、盗人であり強盗です。

10:2 しかし、門から入るのは羊たちの牧者です。

10:3 門番は牧者のために門を開き、羊たちはその声を聞き分けます。牧者は自分の羊たちを、それぞれ名を呼んで連れ出します。

10:4 羊たちをみな外に出すと、牧者はその先頭に立って行き、羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。

10:5 しかし、ほかの人には決してついて行かず、逃げて行きます。ほかの人たちの声は知らないからです。」

10:6 イエスはこの比喻を彼らに話されたが、彼らは、イエスが話されたことが何のことなのか、分からなかった。

10:7 そこで、再びイエスは言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしは羊たちの門です。

10:8 わたしの前に来た者たちはみな、盗人であり強盗です。羊たちは彼らの言うことを聞きませんでした。

10:9 わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら救われます。また出たり入ったりして、牧草を見つけます。

10:10 盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。

イエス様は牧者です。イエス様は羊である神の民とご自身の美しい関係について語っておられます。

また羊飼いは当然門を通過して羊の世話をしますが、門を通らない者は盗人です。イエス様を通してでなければ、正しい導き手ではないのだという意味においても、イエス様は門なのです。

教会などのように、羊であるクリスチャンの群れを導こうとするとき、常にイエス様のみこころを通してでなければ、正しい導き手にはなれないことを知るべきです。または盗人であるサタンに羊を盗まれるかもしれないと警戒すべきです。

私たちはまたイエス様こそが正しい羊飼いであることをよくわきまえて、イエス様のみこころに従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 水曜

ヨハネ



10:11 わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。

10:12 牧者でない雇い人は、羊たちが自分のものではないので、狼が来るのを見ると、置き去りにして逃げてしまいます。それで、狼は羊たちを奪ったり散らしたりします。

10:13 彼は雇い人で、羊たちのことを心にかけていないからです。

10:14 わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。

10:15 ちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じです。また、わたしは羊たちのために自分のいのちを捨てます。

10:16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊たちがいます。それらも、わたしは導かなければなりません。その羊たちはわたしの声に聞き従います。そして、一つの群れ、一人の牧者となるのです。

10:17 わたしが再びいのちを得るために自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。

10:18 だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、再び得る権威があります。わたしはこの命令を、わたしの父から受けたのです。」

10:19 これらのことばのために、ユダヤ人たちの間に再び分裂が生じた。

10:20 彼らのうちの多くの人が言った。「彼は悪霊につかれておかしくなっている。どうしてあなたがたは、彼の言うことを聞くの

か。」

10:21 ほかの者たちは言った。「これは悪霊につかれた人のことばではない。見えない人の目を開けることを、悪霊ができるというのか。」

イエス様は正しい牧者であるというだけではなく、羊のために命をも捨てるという、驚くべき愛の牧者です。イエス様に飼われて養われている羊であるということほど、幸せなことはないのです。感謝しました安心しましょう。

「この囲いに属さないほかの羊」とは、異邦人のことでしょう。イエス様は全人類を愛して、その命がけの救いの対象としてくださっているのです。ですから「ほかの羊」とはまだ救われていない人々のことでもあります。

イエス様のこの愛を受けるということは、その宣教の愛にも感じて、同じ思いで宣教に熱心になるということでもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 木曜

ヨハネ



10:22 そのころ、エルサレムで宮きよめの祭りがあった。時は冬であった。

10:23 イエスは宮の中で、ソロモンの回廊を歩いておられた。

10:24 ユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。あなたがキリストなら、はっきりと言ってください。」

10:25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話したのに、あなたがたは信じません。わたしが父の名によって行うわざが、わたしについて証ししているのに、

10:26 あなたがたは信じません。あなたがたがわたしの羊の群れに属していないからです。

10:27 わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。

10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りません。

10:29 わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。

10:30 わたしと父とは一つです。」

10:31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、再び石を取り上げた。

イエス様が真理を語れば語るほど、救いの中にない人々は、その心が離れていきました。そこでは明らかな分裂が起きました。このように、イエスを信じる者と敵対する者とは一致することができないのです。人間的に考えるなら分裂を避けたいもので

す。しかし、イエス様の真理をあいまいにすることはできません。それは永遠のいのちを損なうことになるからです。

教会でもイエスに従う道と、従わない道とでは一致はできません。一致が欲しいからといって、従うべきことをあいまいにはできないのです。

ですから羊である私たちは、イエス様の「声を聞き分ける」必要があります。そして従ってゆきましょう。従う者による本当の一致、永遠の一致を実現しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 金曜

ヨハネ

10:32 イエスは彼らに答えられた。「わたしが、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」

10:33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「あなたを石打ちにするのは良いわざのためではなく、冒すためだ。あなたは人間でありながら、自分を神としているからだ。」

10:34 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの律法に、『わたしは言った。「おまえたちは神々だ』と書かれていないでしょうか。」

10:35 神のことばを受けた人々を神々と呼んだのなら、聖書が廃棄されることはあり得ないのだから、

10:36 『わたしは神の子である』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が聖なる者とし、世に遣わした者について、『神を冒涇している』と言うのですか。

10:37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じてはなりません。

10:38 しかし、行っているのなら、たとえわたしが信じられなくても、わたしのわざを信じなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしも父に在ることを、あなたがたが知り、また深く理解するようになるためです。」

10:39 そこで、彼らは再びイエスを捕らえようとしたが、イエスは彼らの手から逃れられた。

10:40 そして、イエスは再びヨルダンの川向こう、ヨハネが初めにバプテスマを受けてい



た場所に行き、そこに滞在された。

10:41 多くの人々がイエスのところに来た。彼らは「ヨハネは何もするしを行わなかったが、この方についてヨハネが話したことはすべて真実であった」と言った。

10:42 そして、その地で多くの人々がイエスを信じた。

30節にある「わたしと父は一つです。」とのことばが、自分を神と同列にしているということになるというのです。彼らはそのためにイエス様を石打にして殺そうとしました。

イエス様はご自分が旧約聖書の表現から逸脱していないことを証しされますが、彼らはいくまでもイエス様を殺そうとします。神である方が、その權威を当たり前に表示するときに、人はそれを受け入れることができません。あなたは、イエス様の神であることとその權威を受け入れる者でしょうか。

「父のみわざを行っているのなら」とは、すなわちイザヤ書などに預言されている、メシヤとしてのわざです。イエス様は悪霊を追い出し、病の人を癒しましたが、それは約束の救い主であるということの証なのです。

イエス様の權威を受け入れ、すなわちその權能の前にひれ伏し従順でありましょう。そしてその權威のゆえに恵のわざを期待しましょう。そして大いに恵をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 土曜

ヨハネ



11:1 さて、ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである。ベタニアはマリアとその姉妹マルタの村であった。

11:2 このマリアは、主に香油を塗り、自分の髪で主の足をぬぐったマリアで、彼女の兄弟ラザロが病んでいたのである。

11:3 姉妹たちは、イエスのところに使いを送って言った。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」

11:4 これを聞いて、イエスは言われた。「この病気は死で終わるものではなく、神の栄光のためのものです。それによって神の子が栄光を受けることとなります。」

11:5 イエスはマルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。

11:6 しかし、イエスはラザロが病んでいると聞いてからも、そのときいた場所に二日とどまられた。

11:7 それからイエスは、「もう一度ユダヤに行こう」と弟子たちに言われた。

11:8 弟子たちはイエスに言った。「先生。ついこの間ユダヤ人たちがあなたを石打ちにしようとしたのに、またそこにおいでになるのですか。」

11:9 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるではありませんか。だれでも昼間歩けば、つまづくことはありません。この世の光を見ているからです。」

11:10 しかし、夜歩けばつまづきます。その人のうちに光がないからです。」

11:11 イエスはこのように話し、それから弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラザロは眠ってしまいました。わたしは彼を起こし

に行きます。」

11:12 弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、助かるでしょう。」

11:13 イエスは、ラザロの死のことを言われたのだが、彼らは睡眠の意味での眠りを言われたものと思ったのである。

11:14 そこで、イエスは弟子たちに、今度ははっきりと言われた。「ラザロは死にました。」

11:15 あなたがたのため、あなたがたが信じるためには、わたしがその場に居合わせなかったことを喜んでいきます。さあ、彼のところへ行きましょう。」

11:16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが仲間の弟子たちに言った。「私たちも行って、主と一緒に死のうではないか。」

主への願いがすぐには聞かれないこともあります。それはこのように、「神の栄光のためのもの」ですから、失望することなく祈る必要があります。

また、もしも祈っている人が、聖霊に目が開かれていないならば、「夜歩く」ようなもので、つまずいてしまいます。聖霊に導かれて祈りましょう。聖霊様を歓迎し、求め、あがめることです。

「眠り」と「死」については、この世の知識と本質とは違っています。聖徒の死は、またよみがえることのゆえに、それは「眠っている」のです。理解できない弟子たちに対して、主イエスは「死んだのです」と言い直します。私たちも、見えない真理に関して理解できないこともあるかもしれませんが、トマスのように「私たちも行って…」というように、主に従ってついて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 日曜

ヨハネ

11:17 イエスがおいでになると、ラザロは墓の中に入れられて、すでに四日たっていた。
11:18 ベタニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほど離れたところにあった。
11:19 マルタとマリアのところには、兄弟のことで慰めようと、大勢のユダヤ人が来ていた。
11:20 マルタは、イエスが来られたと聞いて、出迎えに行った。マリアは家で座っていた。
11:21 マルタはイエスに言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」
11:22 しかし、あなたが神にお求めになることは何でも、神があなたにお与えになることを、私は今でも知っています。」
11:23 イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえります。」
11:24 マルタはイエスに言った。「終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることは知っています。」
11:25 イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」
11:26 また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことがありません。あなたは、このことを信じますか。」
11:27 彼女はイエスに言った。「はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております。」
11:28 マルタはこう言ってから、帰って行って姉妹のマリアを呼び、そっと伝えた。「先生がお見えになり、あなたを呼んでおられます。」



11:29 マリアはそれを聞くと、すぐに立ち上がって、イエスのところに行った。
11:30 イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられた。
11:31 マリアとともに家において、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリアが急いで立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだらうと思い、ついて行った。
11:32 マリアはイエスがおられるところに来た。そしてイエスを見ると、足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」
11:33 イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になった。そして、霊に憤りを覚え、心を騒がせて、
11:34 「彼をどこに置きましたか」と言われた。彼らはイエスに「主よ、来てご覧ください」と言った。
11:35 イエスは涙を流された。

マルタやマリアのように、イエス様を「キリストである」と信じていても、この世の全ての人々と同じく、死の悲しみを味わうこととなります。「もしここにいてくださったら…」と言うのと同じく、もしみわぎを行ってくださったら…と思うことがあるでしょう。

それはこの世の人々の悲しみを共に味わい知って、共に生きるためなのでしょう。そのようにイエス様ご自身も共に「泣かれ」たのです。

しかしまたイエス様は時間にも場所にも制約される方ではないので、ラザロをよみがえらせるように、そのみわぎで私たちに回復を与えてくださるのです。

また何よりも「よみがえり」であり、「いのち」である主は、永遠のいのちを与えてください

ます。実はこの永遠のいのちの方が、肉体が生き返ったことよりも大いなることなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

